
トラブルメーカー

ナツキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

トラブルメーカー

【Nコード】

N7426K

【作者名】

ナツキ

【あらすじ】

ある所では普通ではありえないことが普通だったりする。

まずわ

まずは、この辺では関わってはいけない二人を紹介しよう。

徳川聖。こいつはオレがきらいな奴。もう一人は若松緋茶。いつも徳川聖の後ろを背後霊のようについていく奴だ。オレからしたらなんでこいつが関わっちゃいけないのか分からない。

ま、この辺じゃ有名なこの二人には誰も近づかない。あ、オレは例外としての話だ。

うん。ここから語り手を若松緋茶に変わってみよう。この二人が一緒にいる理由が分かるだろう。

「聖く〜んっ！授業！サボりすぎっ」

「…」

聖くん。学校では格好良いともっぱら評判の人。だけど、雰囲気が怖くて皆話しかけられないらしい。

「聖くんっ！起きてることは分かってるんだよ？」

「…寝てるつもりは無いんだけどね」

「それはそれでどうでも良いんだけど、聖くんが授業に出ない限りわたしは、毎時間毎時間聖くんを探しに行かなきゃ駄目なんだよ？いい加減きてよね！」

聖くんは目を瞑ったまま喋った。

「…なんであんたが毎時間くるの」

「隣の席だから」

「…ふ〜ん」

聖くんが喋る一言にはいつも間があいてる。この短時間で間があいてる事を何回考えただろう。最後に「ふん」と聖くんが言ってから何秒たっただろう。10秒?20秒?...1分?時間が遅く感じる。

「...よし」

急に聖くんが言った

「よし?」

そのまま聖くんは立ち上がった。

「...授業...行くんでしょ?」

「...いや、あ、うん。そうなんだけど...」

聖くんはニヤリと笑った

「何?オレは行かないとでも思ってた?...いや...本当は行く気なんてないよ。でも、オレが行かなかったらあんたに迷惑かけるでしょ?」

「...あ...う、うん。」

「行こう」

そう言って私の方をもう一度見て笑って聖くんは階段のほうに向かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7426k/>

トラブルメーカー

2010年10月16日00時34分発行